

ダイズアザミウマの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：ダイズアザミウマに関する有害動植物リスク分析の開始

1 - 1 開始：(開始するに至った問題の本質、目的)

ダイズアザミウマは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、ダイズアザミウマの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1 - 2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1 - 3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1 - 3 - 1 経路

ダイズアザミウマが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1 - 3 - 2 潜在的検疫有害動植物

ダイズアザミウマ（学名：*Mycterothrips glycines* (Okamoto)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1 - 4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1 - 5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2 - 1 植物検疫上の取り扱いに影響するダイズアザミウマの特性等

2 - 1 - 1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2 - 1 - 2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2 - 1 - 3 日本での分布状況及び公的防除の有無

ダイズアザミウマは、北海道、本州、四国及び九州に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2 - 1 の結論

ダイズアザミウマは、北海道、本州、四国及び九州に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物の被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名:	ダイズアザミウマ ^{2), 3), 5), 6)}
学名:	<i>Mycterothrips glycines</i> (Okamoto) ^{2), 3), 5), 6)}
英名:	soybean thrips ³⁾
分類:	アザミウマ目 (Thysanoptera) ^{3), 5), 6)} アザミウマ科 (Thripidae) ^{2), 3), 5), 6)}

分布: (日本) 北海道、本州、四国、九州^{2), 5), 6)}
(世界) 朝鮮半島、台湾^{2), 5), 6)}

寄主植物: ダイコン、カボチャ、トマト、ナス、サツマイモ、アズキ、インゲンマメ、ダイズ^{3), 5), 6)}

形態・生態: 雌成虫は、体長約1.3 mm。雄成虫は、体長約1.0 mm。体色は全体に黄色。春～晩秋まで活動し、ダイズでの発生は地方によって異なるが一般6～10月ころに多く、9月に最大密度となる。^{5), 6)}

被害: 成・幼虫がマメ科を中心に広く野菜類に寄生するが、マメ類を除いて個体数が少なく、実害もない。ダイズでは他のアザミウマと共に頂芽付近の若い葉を食害し、初期展開葉が縮みモザイク病症状を呈するが、ダイズに寄生するアザミウマの種類が多いので、本種によって生じる被害が特定されているとはいえず、多種類の複合的摂食によって被害が発生すると考えられている。⁶⁾

ベクター

・ 系統: 植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。¹⁾

防除法: 野菜類、アズキ、ダイズ、インゲンマメ等においてアザミウマ類に対する登録農薬がある。⁴⁾

文献: 1) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011/10). Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
2) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室. (<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
3) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑 増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京:387pp.
4) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター (2011) 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famic.go.jp/>)
5) 梅谷献二・工藤巖・宮崎昌久 編 (1988) 農作物のアザミウマ 分類から防除まで 全国農村教育協会、東京: 422pp.
6) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京: 1203pp.